



やなぎっ子

さいたま市立片柳小学校

TEL 048-683-3174

FAX 048-683-8971

<http://katayanagi-e.saitama-city.ed.jp/>

少しでも / おかげさま

校長 萩原 哲哉

気が付けば、今年のカレンダーも最後の一枚。2020年も残りわずかとなりました。

年の瀬の風物詩の一つに、「流行語大賞」があります。その年を象徴する言葉を選び、表彰するイベントで、政治関係や芸人さんの言葉の他、今年はコロナ関係の言葉が多く挙げられています。

自分自身の「今年という言葉」は何かと振り返るとき、印象深くよみがえってくる言葉が二つあります。一つ目は「少しでも」という言葉。

「私たちにできることには限りがありますが、少しでも何かのお役に立てばと思います・・・」

(マスクが不足していた頃、手作りのマスクを寄付した方の言葉。)

「お花を見て、少しでも元気になっていただけたらと思います」

(学校再開時、市内の全学校に鉢植えの花を寄贈してくださった本校学区のお花屋さんの言葉)

「みんなが外出できずに家にこもり、ストレスや不安がたまっている。そんな方々へ、少しでも励ましの気持ちが届けられれば・・・。」(ある歌手が新曲を披露する際の言葉)

今年は大変な出来事がたくさんあったために、生活に行き詰ったり、気持ちがマイナスになってしまったりすることも多くありました。そんな時に、さまざまな形で気持ちを届けてくださった方々が大量にいらっしゃいます。そういう優しい気持ちには、必ず「少しでも」の言葉が添えられています。そこには、恩着せがましさを感じさせず、受け取る側の気持ちも楽にする、幾重ものやさしさが込められています。その謙虚さ、気持ちの温かさに、何度も胸を熱くしたものです。

二つ目は、自分たちに向けられた気持ちを感謝で返す言葉、「おかげさま(で)」。

「応援して下さる方々のおかげで、私たちは全力でプレーできます。」

(中断期間を経て、開会したスポーツリーグの選手)

「医療に従事する方々のおかげで・・・。外出もできない時期、宅配便の方のおかげで・・・」

世の中全体が辛い思いをしている中、気持ちを奮い立たせ、人のために尽くして下さっている方に思いを致す、こちらも温かな言葉だと思います。春先の休校期間のひっそりと静まり返った校舎は、子どもたちがいてくれるおかげで、我々は『先生』でいられる、ということ、気づかせてくれました。

コロナ禍に明け暮れた2020年でしたが、「大変な思いばかりの一年だった」をだけでは、この一年が気の毒です。普段気づけないことに気づかせてくれた一年だった、未来に向けて貴重な経験ができた時間だった、・・・カラ元気でも構いません。肯定的な言葉で「2020年」を締めくくることが、来るべき一年を迎えるための、前向きな姿勢が生み出されるものと思います。

「いいことは おかげさま / わるいことは 身から出たさび (相田みつを)」

今年一年、物心両面から大変お世話になりました。御家族皆様で、良いお年をお迎えください。